

## 第2回江南市下水道事業経営戦略策定委員会 議事録（概要）

会議名 : 第2回江南市下水道事業経営戦略策定委員会

開催日時 : 令和元年10月11日（金） 午前10時～午前11時50分

場所 : 江南市役所 3階 第3委員会室

委員 : 出席委員6名（欠席1名）

横山 幸司（学識経験者）

浅野 敏夫（各種団体）

小川 隆史（各種団体）

柴田 喜充（各種団体）

大脇 勇（公募市民）

古田 みちよ（公募市民）

（欠席）奥村 真也（学識経験者）

事務局 : 古田（水道部長）

伊藤（下水道課長）

前田（下水道課主幹）

柴垣（下水道課計画工務グループリーダー）

大池（下水道課業務・経営グループリーダー）

平山（下水道課業務・経営グループ）

傍聴人数 : 1人

### 資料

資料1 江南市公共下水道事業の投資・財源試算

資料2 市街化調整区域における人口集中地区の汚水処理原価

（資料2参考資料） 市街化調整区域における人口集中地区の区域図

### 議題

江南市下水道事業の投資・財源試算について

1. 開会

2. あいさつ

水道部長あいさつ

3. 委員自己紹介

前回欠席委員の自己紹介

4. 議題

江南市下水道事業の投資・財源試算について

- 事務局： ～ 資料1 前半（15ページまで）、資料2について説明 ～
- 委員： 資料2は市街化調整区域の汚水処理原価のデータだが、市街化区域については算出しているのか。
- 事務局： 同様のデータはないが、すでに整備を終えている市街化区域を含む供用開始区域全体の現状の数値について、第1回目の資料の28ページに記載がある。江南市は425円でかなり高いが、これは水洗化率が68.4%と低いことから、整備費に対して処理する汚水量が少ないため、割高になっている状態である。
- 委員： 一般会計からかなりの額を繰り入れても下水道事業は経営が難しいという状況である。市街化区域ですら7割くらい水洗化率のため、市街化調整区域の水洗化率をもっと低くなり、整備を進めても費用がかかるだけで多くの使用料収入は見込めない。下水道ではなく別の汚水処理の仕方もあるので、ほかの方法でやることも必要である。
- 委員： 市街化調整区域ですでに認可を取った地区についても、整備を行うか否かの議論の対象となるか。
- 事務局： そうである。
- 委員： 市街化調整区域でも市街化区域のように住宅が多い箇所を下水道で整備することはまだいいと思うが、それでも人口は減っていくため、市街化調整区域まで整備を進めることは慎重に判断したほうがいい。

- 事務局： ～ 資料1 後半 (16ページから) について説明 ～
- 委員： 資料1のシミュレーションについて、更新投資は含まれているか教えてほしい。
- 事務局： 令和20年度以降に、最初に投資した分の更新が発生する可能性はあるが、影響はあまり大きくないという前提で、今回の試算の中には含んでいない。一般的に管きよの耐用年数は50年と言われているが、今後少しでも長く使えるように長寿命化対策を取っていき、状況を踏まえて計画的に更新する予定である。
- 委員： 令和20年度以降に到来する更新の影響を加味していなくても、整備を進めることは厳しいとわかった。更新が必要となってくれば更に厳しいものとなる。
- 事務局： 都市ガスは、市街化調整区域でも整備しているが、どのような箇所を対象としているのか。
- 委員： 市街化調整区域内でも、一定程度のお客様から申込みがあるエリアは、3、4割の接続でも30年、40年で投資コストが回収できるのであれば整備しているため、10割の接続をめざす下水道整備とは事情が異なる。
- 委員： 汚水処理10年概成の令和7年度までは下水道新規整備に国庫補助は出るだろうが、今後国は下水道施設の老朽化対策に力を入れるので、シミュレーション最終年の令和31年度まで現行の国庫補助が出る可能性は低く、ますます財政的に厳しい状況となるため、整備を進めるべきではない。また、市街化調整区域の整備に入ってしまうと整備・未整備の箇所が生じる。市街化調整区域のすべてを整備するわけではないため、不公平感が生じ市民の理解は得づらいただろう。数字ではっきりと見えてきたので、江南市の将来のため、借金を残さない方針を出して欲しい。市街化区域で整備をやめるべきである。
- 委員： 財政負担が大きい中で、整備を進めるのは避けてほしい。雪だるま式に借金を増やしてでも整備を進めてほしいという方はいないと思うので、ある程度縮小する勇気も必要だと思う。

また、江南市は水洗化率が低いので、せつかく下水道を整備していても率が低ければ効率が悪い。せめて他自治体の水準まで率を高めていく方策も必要ではないか。

- 会 長： ハードのを中心にしてこの委員会では審議をしているが、下水道の整備事業はソフト面も含めて行うべき。現在もそうした下水道の普及促進に関する事務を行っていると思うが、今後、整備区域を縮小したとしても重要である。
- 事務局： 下水道に接続してもらうために啓発活動を行っている。しかし、現状で浄化槽を設置している家庭が多いことに加え、特に高齢者世帯やひとり世帯等では、費用負担してまで下水道に接続しようと考えている市民は少ない。これが下水道の接続が進まない要因の一つである。高齢化が進展すると、今後、水洗化率が高まることはなかなか難しいと考えている。
- 委 員： 他の自治体と比べて江南市は水洗化率が低いので、せめて近隣自治体並みぐらいまで向上させることを期待する。
- 委 員： 現在の江南市の借入金はいくらか。補助金はどのぐらいの額がもらえるのか。
- 事務局： 借入金について、現在は105億円程度の残高がある。理論上、補助金について、工事費に対しての2分の1が国の補助金が出る。残りの45%を企業債、5%を受益者負担金として整備する区域の市民の方にご負担いただくという考え方である。ただ、今後、国庫補助については内容変更の可能性がある。
- 委 員： 市民の立場で考えたときに、この資料を見て市街化調整区域の整備を積極的に進めてほしいと言う人はいないだろう。
- 会 長： 全国的な流れとして、新たな整備を控えている自治体が増えている。これからの人口減少、高齢化社会を鑑みたときにダウンサイジングしていくことは必要である。これは市民の理解も得られると思う。他自治体の事例では、江南市で言うと市街化区域だけを整備していくといったように下水道整備を縮小する方針に転換しているところも多い。

また、使用料について、上下水道とも江南市は愛知県の中で安価過ぎた。上水道は使用料を一定上げることで水道審議会として答申をした。

以上より、これだけのデータを市民に示せば、市街化調整区域の整備をやめることについては一定の理解は得られると思う。ただ、その判断のときには不安や懸念があるため、代替措置やフォロー、合併処理浄化槽の補助制度をより手厚くしていくというような施策を提示する必要がある。その辺り、次回以降の会議で示していただきつつ、今後の下水道の整備方針案を示してほしい。

○事務局： 整備方針案は、本日の皆さんの意見を踏まえて作成し、次回の会議で配付したい。

下水道整備区域の縮小に向けて、市街化調整区域の中でもすでに認可を取った区域があることや、県の流域下水道、流域下水道構成市町との調整等も必要になるので、それら影響等についても提示したい。

○会 長： 当初の下水道整備区域から縮小するのに向けて、事務手続き等どのような調整が予定されるかについて、次回提示していただきたい。

## 5. その他

今後の予定について

○事務局： 第3回の策定委員会を10月29日に開催予定

## 6. 閉会